

千葉県中核地域生活支援センターニュースレター

# ちばの地域福祉

## 「中核」固有の視点を貫け

社会福祉法人 愛光  
理事長 法澤 奉典

本誌第19号（2011.12.1）において、和田忠志氏が展開しておられる論点を、私なりに引き継いでみたい。それは「地域包括支援センター」について論じられている部分についてである。

当法人では、2004年からの中核地域生活支援センター（以下「中核」）受託に続き、2009年4月からは地域包括支援センターを佐倉市から受託している。

ご案内のように、地域包括支援センター（以下「地域包括」）はその名称のとおり、地域住民を包括的に支援するのが目的である（介護保険法第15条の45）。「包括的支援」とは「生活上の安心・安全・健康を確保するために、医療や介護のみならず、福祉サービスを含めたさまざまな生活支援サービスを日常生活の場（日常生活圏域）で適切に提供できるような地域での体制」のことである。「住みなれた地域」「尊厳あるその人らしい生活の継続」「介護保険サービスを超えて、地域住民も参画するインフォーマルサポート」「包括的かつ継続的支援」…これらが「地域包括ケア」を理解するためのキーワードである。ここにある地域目線での「対象者横断」「制度横断」の包括支援の取り組みは、時代の先駆けと評価できる。個人を地域で支える、またそのような地域をつくるという援助の方向は、現在制度の枠に縛られながら取り組んでいる「中核」の現場にとっては、大いに励みになる考え方である。

また「地域包括」では、ソーシャルワーカー（社会福祉士）の担う役割が注目されている。すなわち「課題別対応による実践」から「地域割による実践」への移行という、コミュニティソーシャルワーカーとしての「総合相談」機能が再認識されている。これも大いに励みになる視点である。社会福祉の実践とは本来「対象別」に完結するものではない。ちなみにわれわれの経営ビジョンにおいても、地域貢献とは総合的、包括的に行なってこそ意味があると強調しているところである。

これらの視点は、まさに「中核」が追求してきた独自の視点、方向性に合致する。先ごろ発表された「障害者総合福祉法（仮称）骨格提言素案」において、人口3～5万人を単位とする「地域相談支援センター」が構想されている。邪推すれば、千葉県の意向として伝えられる「中核」の「市町村への移管」構想と気脈を通じているようにも感じる。しかしこれが「地域包括」と別個に地域に並存する形はどのようなだろう。確かに地域における相談支援体制の強化ではあるが、「包括」と「相談」が違うだけで、その名称も役割の違いも紛らわしい。

私は「中核」が制度に風穴をあける過渡的存在だからこそ意味があると思ってきた。収斂されるべき「受け皿」ができることを制度改革にも期待してきた。つまり「中核」の発展的解消こそが望ましいとさえ思ってきた。皮肉を込めて、逆説的に言うなら、地域の相談支援が制度別、対象別に続くかぎり、中核地域生活支援センターは何が何でも存続させるべきである。

（いんば中核地域生活支援センター「すけっと」経営法人）

# ちば・元気印！～こんなひと、見つけた～

## 国立国際医療研究センター国府台病院 精神科医師 吉田 衣美 氏

今回は国立国際医療研究センター国府台病院精神科医師吉田衣美さんに、先生が携わっている ACT（包括型地域支援プログラム）についてお話を伺いました。

吉田先生と ACT の出会いは、福島での研修医時代に ACT のチーム精神科医をされていた西尾先生の講演を聞いたことです。「病気があっても地域で精神疾患のある人を支え、地域で暮らすことができる」この言葉に感銘を受け、2年前に吉田先生は福島の大学から ACT を実践している国府台病院にやってきました。国府台病院1年目は市川の地域を知るために外来や病棟を経験し、去年から ACT チームの一員として働くことになりました。

ACT を実践していく中での率直な感想は「楽しいけど難しい」です。今までの病棟や外来での医師の大きな役割は“症状が改善する処方”をすることでしたが、ACT では背景にある利用者さんの人生や生活を一緒に考え、利用者さんと ACT のケースマネージャーと相談しながら“生活しやすくなる処方”を考えることが重要な役割になっています。そのため、処方の際、病状だけではなく地域で生活することを考え、薬と生活のバランスを見て処方を考えます。生活の中で薬とどう付き合うかを一緒に考えていくことも大きな役目です。時に症状が悪くなった利用者さんの自宅に往診に行くこともあり、そのような時に利用者さんの生活の一端をみることで、治療や処方を変えていくことがあります。

ACT スタッフとして働き始めて1年が経過し、現在の実感として、ACT は畑を耕すことに似ていると感じています。ACT を実践する中で、地域の方や資源と関わっていき、地域資源を新しく知り、また一緒に活動をすることで新しいものが出来上がっていく、そういうことを通じてスタッフや利用者さんも新しいことに挑戦していく、その結果、地域が耕されていっているのかも知れません。

これからは ACT という形態にこだわらず、より精神疾患についての理解や対応、支援の輪を広げていくことを考えていきたいと思っています。地域志向の若い精神科の先生が増え、また、いろいろな職種の方々にも ACT やその考え方を理解してもらい、精神疾患を持っている人たちが地域で生活することを支援する仲間を増やしていきたいです。

【取材圏域：がじゅまる（市川圏域）】

事業署名：NPO 法人リカバリーサポートセンター  
ACTIPS（アクティブス）  
訪問看護ステーション ACT-J  
所在地：千葉県市川市市川4-6-8 にしやまビル1F  
T e l：047-373-4432（ACTIPS）  
047-373-4433（ACT-J）  
F a x：047-373-4435





## ちば・地域発 ～県内ア・ラ・カルト～

平成23年度 千葉県精神科医療センター公開講座

### 第2回 こころの健康フォーラム in 幕張

～知っておきたい「こどものメンタルヘルス」～

〔内容〕 1. 基調講演 「心身の発育から見たこどもを育む『絆』の模索」

講師：石川 真紀 氏（千葉県精神科医療センター 医員）

2. パネルディスカッション テーマ「知っておきたいこどものメンタルヘルス」

パネリスト：浅岡 裕子 氏（子どもと親のサポートセンター 研究指導主事）

石川 真紀 氏（基調講演者）

コーディネーター：浅野 誠 氏（千葉県精神科医療センター センター長）

〔日時〕 平成24年3月3日（土）14時開演（13時半開場）

〔会場〕 幕張テクノガーデン CB棟 301 会議室（千葉市美浜区中瀬 1 丁目 3 番地）〔参加費〕 無料

〔申込み〕 事前申込みは不要です。ただし、満員の場合入場をお断りすることがあります。

〔問い合わせ先〕 千葉県精神科医療センター フォーラム実行委員会

TEL：043-276-1361 E-mail：[seisin1@mz.pref.chiba.lg.jp](mailto:seisin1@mz.pref.chiba.lg.jp)

HP：<http://www.pref.chiba.jp/byouin/seisin>

## ちば県民共生センターセミナー 「男性と介護」

〔内容〕 ◆講演「男性が介護するということ～『ケアメン』100万人へのメッセージ～」

講師 <sup>つどめ</sup> 津止 正敏 氏（立命館大学教授・「男性介護者と支援者の全国ネットワーク」事務局長）

◆トークセッション「“誰もが介護者”の時代をどう生き抜くか」

スピーカー 津止 正敏 氏（講演者）

畠 淳子 氏（JA 千葉厚生連事業部介護事業課長）

〔日時〕 平成24年3月11日（日）9時半～11時45分（受付9時15分～）〔参加費〕 無料

〔会場〕 千葉市文化センター5階セミナー室（千葉市中央区中央 2-5-1）〔定員〕 120名（申込先着順）

〔申込み〕 電話、FAX、メールにて下記、問い合わせ先にご連絡下さい。「男性と介護」参加希望の旨、住所、氏名、電話番号、FAX 番号及びメールアドレス（お持ちの方）をお伝え下さい。

〔お問い合わせ〕 ちば県民共生センター「男性と介護へ」

TEL：043-252-8036（月曜休館） FAX：043-252-8037

E-mail：[kenkyouse@mz.pref.chiba.lg.jp](mailto:kenkyouse@mz.pref.chiba.lg.jp)（千葉県青少年女性会館内）

## 夷隅ひなた

夷隅郡市（いすみ市・勝浦市・大多喜町・御宿町）の人口約8万人の圏域です。他の圏域と比べ最も人口の少ないエリアです。南房総の豊かな自然に囲まれ、お祭りなど様々な文化があります。また、ここ数年は都市部などから転入してきた方々が加わった、新しい活動が生まれたりもしています。

「夷隅ひなた」は平成17年4月にいすみ市（旧大原町）に事務所をオープンしました。現在、所長以下コーディネーター4名とグループホーム等支援ワーカー1名で相談支援にあたっています。高齢者、若者、子育て世代、障害のある方などから様々な生活上の問題（家族関係や孤立、貧困、就職、移動手段等）のご相談があります。



福祉資源が豊富にある地域ではないので、その中で行政や事業所などの関係者とも協力しあいながら、個々のつらい状況を改善していけるように努めています。

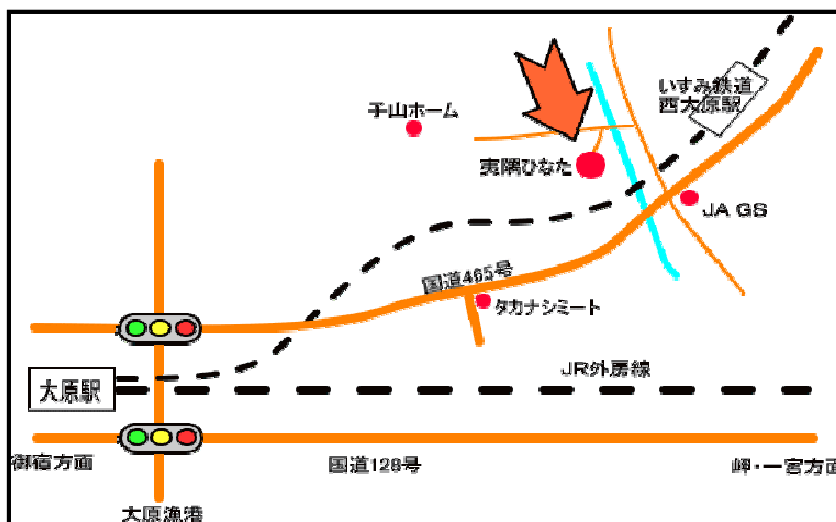
これまでに培ったものをご相談に活かしていくことはもとより、地域の必要なあり方を提案していけるように努めていきます。

（記：コーディネーター 馬場崎雅子）



所在地：

いすみ市深堀 689-1  
TEL 0470-60-9123  
FAX 0470-60-9124



発行元：千葉県中核地域生活支援センター連絡協議会

事務局：香取ネットワーク（香取圏域）香取市北1-11-18 TEL:0478-50-2800 FAX:0478-50-2881

編集：海匝ネットワーク（海匝圏域）旭市イの1775 TEL:0479-60-2578 FAX:0479-60-2579

※内容についてのお問い合わせは、海匝ネットワーク（担当：丸山）までお願いします。